

保元物語

新院御謀反露頭并ニ調伏附内府実能意見ノ事

さる程に同じき八日関白殿下、大宮ノ大納言伊通卿、春宮ノ大夫宗能卿参内して、来る十一日、左大臣流罪の由定め申さる。謀反の事既に露頭に依つてなり。其の故は左府、東三条に或僧を籠めて、秘法を行はせ、内裏を呪詛し奉らるゝ由聞えて、下野ノ守義朝に仰せて、其の

身を召されければ、東三条殿に行き向つて見るに、門戸を閉ぢて敲けどもあけず。依つて西表の南の小門を打ち破つて入りぬ。角振隼の社の前を過ぎて、千巻の泉の前に壇を立て行ふ僧あり。相模の阿闍梨勝尊とて、三井寺の住侶なり。「宣旨ぞ、参れ」といへども音もせず。兵二人寄りて左右の手を引つ立つれども、腕を屈めて延さず、恰も力士の如くなり。「其の儀ならば法に任せ

よ」といふ程こそあれ、兵数多^{あまた}寄り、取つて伏せて之を搦め、本尊并に左大臣の書状等、相具して率^{もつ}て参る。蔵人治部ノ大輔雅頼、一臈^{いちらふ}判官俊成、承りて仔細を問ふに、別の儀なし。関白殿と左大臣殿との御中、和平の由を祈禱申すと云々^{うんぬん}。されども左府の書状顯然なり。其の状に曰く、

御撫物^{なでもの}ノ事承候畢。誓^ヒ天^ニ感^シ地^ニ、応^ジ曜宿良辰^ニ、

於^テ賞罰嚴重、冥衆^{めうじゆ}影向^{やうかう}ノ地^ニ、被^ル修^セ無双深秘ノ法^ヲ一^ニ事、尤^モ以^テ神妙之由、御氣色所^レ候^フ也。我^レ聞^ク惠亮碎^{ケバ}二^ニ頭腦^ヲ一^ニ、備^リ清和帝祚^ニ一^ニ、尊意振^{ヘバ}二^ニ智劍^ヲ一^ニ、加^フ二^ニ刑罰^ヲ将門^ニ一^ニ。不^ル及^ニ人力^ニ一^ニ所、冥顯之擁護^{おうご}如^シ此。然者^{レバ}発^シ二^ニ猛利誠心^ヲ一^ニ、致^{サバ}二^ニ丁寧懇志^ヲ一^ニ、何^ゾ不成^ニ就素意^ヲ一^ニ哉。爰^ヲ以^テ歸^ニ伏^シ怨敵^ヲ一^ニ、相^ニ從^フ群臣^ノ謀^ニ一^ニ、奈何^{ンゾ}背^{カン}二^ニ礼法^ニ一^ニ乎。早^ク慰^{セン}二^ニ鬱念^ヲ一^ニ此ノ時

也。再^ビ耀^ニ映^{セン}光^ヲ禪房^ニ事、更^ニ不^ル可^レ有^レ疑^ヒ者也。
恐々謹言。

七月二日

頼長

明王院相模阿闍梨御房

御返事

件の法は、烏瑟沙魔、金剛童子、聖天供とぞ聞えし。

底本…国立国会図書館デジタルコレクション『保元物語評釈』鳥野幸次著

〔口訳〕

同じき八日に、関白殿下、大宮大納言伊通卿、春宮大夫宗能卿が参内して、来る十一日に左大臣頼長を流罪にすることに定められた。謀叛の事がすでに露顕したからである。その故はかうである。左大臣が東三条に或僧をこもらせて、秘密の法を行はせ、内裏を呪ひ奉つてゐることが聞えたから、下野守義朝に仰せられて、その僧を召されたので、東三条殿へ行つて見ると、門戸を閉ぢてゐて敲いてもあけない。そこで、西表の南の小門を打破つて入つた。角振、隼の二つの社の前をすぎて、千巻の泉の前まで行くと、そこに壇を立てて法を行つてゐる僧がある。

相模阿闍梨勝尊さがみのあじやりしょうそんといつて、三井寺の住僧である。

「勅命であるぞ、参れ。」

といったが、返辞もしない。兵つはものが二人寄つて、左右の手を取つて引立てたが、肘をかゝめて延べない。まるで力士のやうである。

「その儀ならば制規の通りにして捕へよ。」

といふや否や、数多の兵が飛びついて、取つて伏せて、これを縛つて、本尊や左大臣の手紙なども取添へて連れて来た。蔵人くらうど

治部大輔雅頼ちぶのたいふまさより、一臈判官俊成いちらうはんぐわんとしなりが仰せを受けて取調べると、

「別段の儀ではありません。関白殿と左大臣殿との御仲がなほ

りますやうにと御祈禱をいたしたのです。」

といったが、左大臣の手紙で事実は明白である。其手紙にはかうあつた。

御人形おんひとかたの事は承知しました。天に誓ひ地に感じ、九曜

二十八宿の吉日を選んで、仏神の賞罰も嚴重に、幽冥の諸

神仏の御加護もあるところで、此上もない深い秘法を行

はれることはまことに奇恃なことに新院も仰せられてであ

ります。聞くとところに依ると、昔、恵亮ゑりやうが頭脳づなうを砕くだいて祈

つたので、清和天皇は御位に即かれ、尊意じゆんぎが剣のやうな智

慧を振つて祈つたので、平将門が滅びたといふことである。
人間の力の及ばないところに神仏の御加護のあることはか
くの通りであります。ですから、猛^{たけ}く利^ときまごころをもつ
て、ねんごろにお祈りすれば、どうして予^{かね}ての願ひの成就
しないことがあります。であつて見れば、怨のある敵を
降すために、群臣のはかりごとに従つて御祈禱を行はれて
も、なんで礼法にそむくことなどがあります。早く積る
怨みを晴らすのは今です。再び名誉を寺内に揚げんことは
決して疑ひがありません。恐々謹言。

七月二日 頼長

明王院相模阿闍梨御房 御返事

この秘密の法は烏瑟沙^{うささ}摩、金剛童子^{こんがうどうし}、聖天供^{しやうてんぐ}といつて、怨敵降
伏のものだとわかつた。